

2003 春・総合 3-7

「総合」でリーダー実習生は何をするのか

細川 英雄*

2003 年 4 月 18 日

1 2003 春総合の組み立て

「総合」は、月～木の各技能を「総合」するにとどまらず、具体的な目標による問題発見解決作業を行い、学習者の「考えていること」を引き出すとともに、学習者自身の「言いたいこと」を日本語による活動として達成感のあるものにしていくプログラムである。したがって、到達目標としての語彙文型あるいは表現場面が具体的な学習目標として設定されている月～木の学習とは性格を大きくことにするものである。新学習指導要領における「総合的な学習の時間」の位置づけに近い。

7	内田	細川 + TA
6	元橋	
5	中川	
4	中山	
3	酒井	

2 総合 3-7 の活動とその内容

2.1 「レポート集をつくる」という活動のための手順

1. 自分の興味・関心に即したテーマを選ぶ。たとえば、「 について」というタイトルをつける。
2. テーマ設定理由を書く。A4 半分 (400～1000 字) 程度。テーマ設定理由の終わりに、必ず「自分(私)にとって とは～である」(自分にとって はどのような意味を持っているか - 理由のまとめ)を入れて締めくくることが。<動機>
3. 自分の理由をぶつける相手をさがす (1 または 2 名)。

* URL: <http://www.f.waseda.ac.jp/hosokawa/>

4. さがした相手とじっくり話し合う。〈ディスカッション〉
5. 話し合った結果をグループで報告し、意見をもらう。〈話し合い〉
6. グループで出された意見等を参考にして、自分の結論をまとめ、全体を完成させる。〈結論〉
7. 各グループでそれぞれのレポートを検討する。(相互自己評価)
8. レポート集を作る

2.2 レポートを書くための大切なポイント

1. テーマを自分の問題として捉えているか。
2. 他の人の意見をどのように取り入れたか。
3. 動機と結論に一貫性はあるか。

2.3 日程

1	(4・18)	テーマ設定(自己紹介私の好きなこと,興味と関心)
2	(4・25)	テーマ理由執筆(1)
3	(5・02)	" (2)
4	(5・09)	" (3)
5	(5・16)	ディスカッション(1)
6	(5・23)	" (2)
7	(5・30)	" (3)
8	(6・06)	ディスカッション報告(1)
9	(6・13)	" (2)
10	(6・20)	" (3)
11	(6・27)	下書き(1)
12	(7・04)	" (2)
13	(7・11)	原稿提出
14	(7・18)	相互自己評価(1)

2.4 グループ分けについて

学習者はすでに3～7にグループ分けされている。

3～7については、既定のグループ分けを尊重する。最終的な評価で90点を取得すれば、次学期に1レベルのレベルアップを行う。

グループ	リーダー（1名）	実習生（2～3名）	学習者（5～7名）
3			
4			
5			
6			
7			

3 レベルとレポート分量の関係

グループ	執筆分量
3	3 ページ
4	4 ページ
5	5 ページ
6	6 ページ
7	7 ページ

1 ページは 1600 字。なお、最終ページは、3/4 以上書くこと。

4 欠席について

午前と午後は連続して行うが、それぞれ 1 回と数える。リーダーは出欠を管理。

半期 30 回のうち、2/3 が規定の出席時数。したがって、計 8 回休むと、評価・被評価権を失う。

遅刻は、3 回で 1 回の欠席。遅刻の扱いは、リーダーの判断による。

5 オンデマンド BBS（掲示板）の使用

BBS への入り方 早稲田大学 HP^{*1}の訪問者別メニューから「在学生のみさなん」 Waseda-net portal^{*2} 【メールアドレス・パスワード】 オンデマンド授業 「総合 3 - 7 (春)」 「参加」 「新規」(または「意見への意見」)

^{*1} URL : <http://www.waseda.ac.jp/index-j.html>

^{*2} URL : <https://www.wnp.waseda.jp/portal/portal.php>

6 メーリングリスト（ML）の活用

PNJ（金1）メンバーの交流・連絡等には，ML（アドレス：PNJ@list.waseda.jp）を使用する。

毎回事前のMLチェックを義務とし，毎週1回以上の発信を原則とする。また，クラスでは印刷を行わないので，プリントアウトは個人で行うことを原則とする。

7 評価について

評価は，最終的に全員で行う。

評価表（別掲）に基づき，15点満点中12点獲得を80点の目安とする。

評価を受けるための最低条件

1. 2 / 3 以上出席すること。
2. レポートを提出すること。
3. レポートを完成させること（規定の字数をクリアすることを含む）。
4. 最後の相互自己評価会に出席すること。

8 レポートの修正について

このクラス活動での最も重要なことは，学習者の発言およびレポート作成過程における学習者自身の内言と外言の往還の活性化である。

リーダーは母語話者としての優位性とその権力性を自覚し，一方向的な訂正を行わないよう注意する。

意味不鮮明の表現等については，6W1Hの質問形を駆使して，学習者の表現意図を引き出すように努めること。その際，学習者の語彙力・構文力に細心の注意を払い，場面に応じた「足場掛け」を行う。

9 参加者の区別について

次の5区分を設ける。

- クラス担当者（細川）
- リーダー（各グループの活動を担当者の指示に従って，組織化する）
- 実習生（「総合」クラスをはじめて体験する人で，この体験の意味について考察する）
- サポーター（すでに「総合」クラス体験者で，自らの教育研究のために参加する）
- 学習者（「総合」受講者）

9.1 クラス担当者の役割

リーダーを中心としたグループ活動運営をクラス責任者の立場から全体的に統括し、このクラス運営に関するすべての責任を負う。

9.2 リーダーの役割

上記の手順に従って、学習者のレポート執筆活動の支援をする。

学習者がクラス活動において相互自己評価できるようになるための支援を行う。

最終評価について統計を出し、各学習者に配布する。

各自のグループの学習者の言動に細心の注意を払うとともに、随時、BBS 上にて助言を行い、発言が活発に運用されるよう配慮する。

出欠・遅刻の管理（欠席の多いものには注意を促す）。

金 1 のミーティングにて意見交換を行い、各グループの情報を交換しあい、クラス活動の組織化について検討する（活動記録および分析・考察の結果を出版する可能性あり）。

9.3 実習生の役割

実習生は、任意のグループに参加し（期間中は固定）、リーダーの指示に従いつつ、学習者のレポート執筆活動を支援する。

輪番に各グループでの活動記録を担当する。

同時に、金 2・3 クラスにおいて各自レポートを執筆する（体験的学習）。内容検討は、金 2・3で行う。また、最終的に「総合」における日本語教師の専門性を執筆する（A 4で3ページ程度）。

9.4 サポーターの役割

サポーターは、任意のグループに参加し（期間中は固定）、リーダーの指示に従いつつ、学習者のレポート執筆活動を支援する。

輪番に各グループでの活動記録を担当することがある。グループの記録を自らの教育研究の資料として使用することができる。実際に使用の際は、その旨を明記すること。